

いしかれん だより

第17号
1996. 11

石川県精神障害者
家族会連合会
〒920 金沢市南新保町ル3番1号
石川県精神保健福祉センター内
TEL (0762) 38-5761
FAX (0762) 38-5762

「私と家族会」

けやきの森家族会

会長 紺谷 徳子



秋も日に日に深まって参りました。子供が病気になってから幾度か秋は巡り、季節は移り変わりましたが、その間、子供も年がゆき親

も老齢といわれるようになりました。

発病してから病院へ行くまでの間は、近所とのトラブルで私は胃痙攣と膀胱炎を繰り返していました。敵は近所だけではなく。夫との戦いでもありました。夫は子供の異常を認めず、誰にも話せず、穴を掘って心の中のものをみんなぶちあげたいと、いつも思っていました。

病気だと診断されてからは、「私の一生の中にこんな事があっていいのだろうか。これは何かの間違いにちがいない。悪い夢を見ているのなら早く覚めて欲しい」と思い続けました。アルコールに酔っている時だけが現世を肯定出来る。そんな日が続いていました。親鸞の歎異抄、道元禅師の正法眼蔵など宗教書を読みあさったのもこの頃でした。「悲しいときは、悲しむが良く候」と故人が言ったように、悲しみから逃げないで、どうしても動かしがたい事実を認めなければならない時期でもありました。

そんなある日、病院の長椅子に置き忘れてあった「地域に根づく暮らしを求めて」という冊子を見たのです。そのご縁で家族会の存在を知りました。そこには話し合える仲間がいました。徐々に病気についての知識、対応のしかたがわかってきた頃、次に「作業所が欲しい。親

なき後の福祉施設が欲しい」と願うようになって参りました。

ふと周りを見廻しますと、保健婦さんをはじめ皆さんやさしいのです。必死になって隠していた時にはみえなかった周りの人達のやさしさがみえてきたのです。バザーに出品する小物を縫って来てくださる人、「何か力になれる事があったら言うように」といって下さる前職場の上司、「何か応援できることはないの」と言ってくれる友人など。

今、穏やかに年を重ねる夫と子供と食卓を囲むとき、そよ風でも吹いてくると、「これでいいのだ。これ以上何を望む事があるだろう。」とすべてを肯定してしまうのです。ほかから見れば、老いにさしかかった夫婦と障害のある子供が食卓を囲んでいる。それだけのことなのに、かけがえのない大事なことで喜び、無上の喜びとして感謝の念がわいてきます。

こうして過ぎ去った十年を振り返ってみますとき、一番つらかったのは誰にも話せず一人で悩んでいた頃でした。私達の地域にもまだ家族会の存在を知らずに一人で悩んでいらっしゃる人が居られると思います。そういう人達に「ここへいらっしゃい。ここには何でも話せる同じような仲間がいますよ。病気のこと、親なき後のことを一緒に考えましょう。」と言ってあげたい。

今、金沢市精神障害者家族会連合では、まず、そういう家族の方に家族会の存在を知っていただき、「家族会へどうぞ」という運動をはじめなるべく、準備をすすめているところです。

平成8年度 北信越ブロック研修会を開催して

平成8年9月5日（木）から7日（土）まで小松市粟津温泉にて北信越ブロック研修会を開催いたしました。準備に長い期間をかけ、当日もたくさんの会員が運営に携わりました。県内外から430名という思いがけない多くの方々が

参加され充実した時間を過ごすことができました。これを機会に家族会活動のより一層の発展に向けて新たな歩みを始めようではありませんか。

第一分科会 （本来の家族会活動 とは）に参加して

みそぎ会々長 佐 渡 若 男

本年度平成8年は、北信越ブロックの中で当石川県が開催地となり、小松市粟津で行われました。研修会のために、その準備、運営、費用など地元の皆さんの多大なご尽力があったことと推察いたし先ずはご苦労さまでしたと申し上げます。

さて昨年は全家連が発足して30年を経、そのメモリアル大会が全国より5,000人横浜市に集まるという活況の中で開催されました。その中で精神保健行政を動かしてきたのは家族会の運動であるとのことが報告、強調されていましたが、当研修会も400人を超えるかってない参加規模であり、第一分科会も130人ぐらいの参加であり盛況でありました。会議の内容におきましては、福井県、新潟県、長野県の発言者から報告がなされ、これに対しての質問意見がかわされたのですが、若干の相違があるとはいえ基本的に共通することは①会員の不足（未組織状態）②会員の高齢化③例会や諸行事への参加に



開会式にて 林会長挨拶

腐心、ということでありました。そのために他の障害者に比して、精神障害者の福祉への取り組みが、その歴史的偏見差別とも相俟って非常にたち遅れている現状をお互いに痛感したことであります。

ノーマライゼーションという言葉をだいぶん以前に聞いたことがあります、ようやく障害者基本法、地域保健法そして精神保健福祉法へと法的には少しずつ整備されてきていますが本当に現実に福祉を勝ち取るにはまだ先は遠いと思います。

そのために家族会が自助努力として会員相互の親睦、研修、運動を深めて組織強化をはかり、さらに未組織者への働きかけを具体的にを行い組織拡大をはかることが焦眉の急であることを学びました。研修で学んだことを家族会の運営に反映したいと思いますので会員の皆さんよろしくおねがいたします。

第二分科会 (例会の活性化)に 参加して

けやきの森会長 紺谷 徳子

三家族会の発表と、またたびの家の酒井昭平さんの助言ですすめられました。

家族会の目標は生き生きとした生活が地域でできることです。活性化のポイントとして患者の再発防止、より良い回復、より豊かな生活の実現、そして家族の負担を少なくして家族が楽になれることです。患者が在宅していることで家族の苦労や負担が増えるようでは困ります。どれだけ自分が楽になれるか徹底して考えてゆくことを目標にしてください。精神障害者を身内にかかえることは並大抵のことではありません。この大変なことをかかえている家族会の運営なのだということをしっかり認識して会をすすめてほしい。以上、酒井昭平さんの助言の中から拾ってみました。

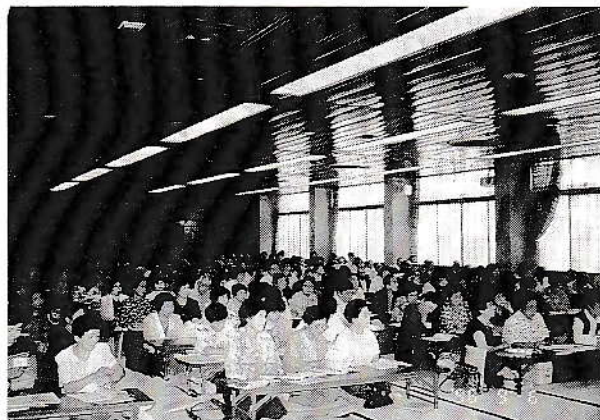
次に発表者三家族会が工夫、努力してこられた例を二、三あげてみましょう。

- なんでも安心して話し合えて、ぐちが言えて、その苦しみや悲しみを聞いてくれる場と人が必要。
- 通信、新聞等に例会の報告、次回の予定、精神保健福祉の情報、会員の声などを載せて定期的に発行を継続してきた。
- みんなで材料を持ち寄っておいしいものを作っていただく時は、みんなほんとうにいい顔をしている。
- 連絡網を作ることで、仲間とのコミュニケーションが活発になった。

以上、例会の活性化には特効薬はなくこれからも模索しつづけなければならない課題でありましょう。



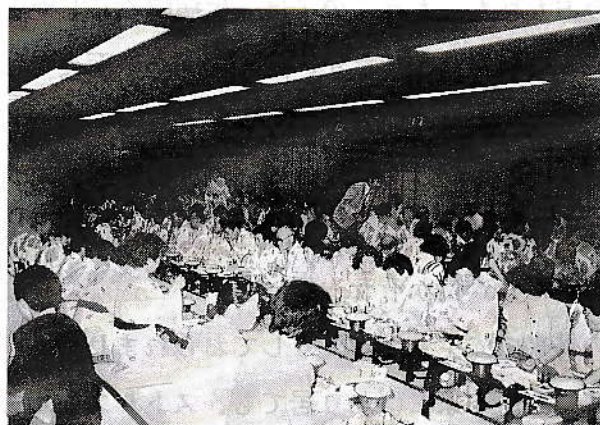
手話つきのオープニングコーラスで
なごやかに開会式が始まりました



熱心に聴き入っています



4つのテーマに分かれての分科会風景



芸達者な人達が多く、盛り上がった懇親会



秋山先生の講演

15年ぶりに退院して

あけぼの会々長 上 杉 キミ子

二男が長い入院生活から思い切って退院をしました。それは常日頃考えては居たもののなかなかふみ込んで思い切ることが出来ず、長期の入院となりました。5年前に父親も他界し私も60歳の年齢になり、勤めを辞める事になり、余生をこの子のためにと考えたからです。病気の方は良くもなく、悪くもなく、いつのまにか15年がすぎました。その間、一度は退院しましたが余りの良さに主治医が薬をかれ、又、入院となりました。よい時は、約1年くらい本人自身で遠い所へ車で通うことが出来ました。病院の方も私も、もうこの子は一生病院ぐらしかと思っては居りましたが、月に何回かの面会で私は様子を見たりいろいろ入院患者さんと話をしたりしてその子の病状について、いろいろな角度から見えていました。今思うと、思い切って退院したのが良かったと思います。二週間に一度の外来で先生もびっくりしておられました。

そろそろ家にばかり居ても、ストレスもたまるので、よくドライブとか、いろんな所へ出かけますがけっこう人様の中でも耐えられる様で

す。私も家族会の一員として長いので、何か良い作業所でもないかしらとただ今考え中です。加賀市の方では、病院家族会と地域家族会がありまして、私の方は地域家族会に長年入会していました。病院の方では作業所がありますが、私の子は加賀市の病院と違いますので山代保健所のあけぼの会でした。

私の思うには、あけぼの会にも一か所ぐらい作業所があればと常に思っておりまして、保健所の保健婦さんや会員の皆さんも「ぜひ一つぐらい必要ですね皆でがんばりましょう」と話も進み、先日小松のフレンズくろゆりやワークハウスつばさへ見学させていただきました。フレンズくろゆりではメンバーの皆さんがいっきと色々な作業にとりくんでおられました。私達の見学させていただいた日が、丁度皆さんの給料日とあって、大なり小なりの報酬に眼をかがやかせていたのが、大変印象的でした。フレンズくろゆりの方も、「力になりますから、ぜひ山代の方でも、一か所作業所があれば」と、はげまして下さいました。



精神障害者の家族会について

泉の会々長 草 開 實

家族会は身内に患者さんを持つ家族の集まりです。他人には言えない悩みを家族同士で語り合い、互いに励ましあい、助け合うというところですよ。精神病には「遺伝、危険」といった誤解や偏見があります。こうした偏見を家族自身を取り払うためにも、精神病や障害に対する正しい知識を身につけることが必要です。

私も精神障害の娘を持つ親として発病時には知識も少なくただおろおろするばかりで、この世に神も仏もあるものか、又は自分を責めてみたりと心配、悩み苦しんでおりました。

3年程前に保健所の保健婦さんより家族会を紹介され入会させて頂きました。苦しんでいるのは私だけではないと言うことを知り、みんな同じような体験をしていることがわかり、話せば気持ちが軽くなり現在に至っております。病院から退院した患者さんの多くの方は家に引きこもり家族も疲れていると思います。こうした

引きこもった患者さんとその家族の立場に立って考え行動が出来るのが他でもない家族会であると思います。

石川県では精神障害者と言われる患者数は推定で12,000人、その内家族会への入会数330人程度と聞いております。親戚の人々に対する遠慮、家族への波及、親族の婚姻問題、世間体など、いろいろな事情で家族会への入会をためらっている人が多くおられます。一人でも多くの家族の方と苦しみを分かち合い、今困っている問題を出し合い、家族同志支え合う場とし、障害を持ちながらも生活して行けるような社会にして行くことが大切だと考えます。

一家族の力は小さいが多くの家族が集まればいろいろな活動、運動が出来るのです。

そして精神障害者の病気の回復と社会復帰が一日も早く来れば幸いに思います。

+++++

今年度からこれまでの会長・副会長会議を拡大して会長・副会長に加え以下の方々に常務理事に入ってもらい、月一回常務理事会を開催しています。

新 任 常 務 理 事

草 間 實 (泉 の 会)

佐 渡 若 男 (みそぎ会)

紺 谷 徳 子 (けやきの森)

中 農 良 男 (鳴 和 の 里)

共同作業所 鳴和の里

鳴和の里会長 中 農 良 男

1 鳴和の里作業所の出来るまで

おおばこ会 元町会 泉の家などで県内外の作業所を視察しているなかで、金沢にはことじ作業所のような宿泊施設のある作業所、泉の家のような再発防止を目的にしたサロンの作業所があるが、小松のくろゆり作業所（当時）のようなものが欲しくなりました。

しかし、このような施設を設立するには、強力な家族会の支援が必要であり、おおばこ会の会員、特に奥さん方が頑張り毎月勉強会を重ねました。家族が気軽に訪れ仲間と語り会える場所、子供達も気軽に訪れ作業しながら仲間づくりをして、社会参加のワンステップとなり多少ともお金が得られるような作業所を作ろうと決心しました。

施設作りには、場所や資金等の困難な問題がありましたが、場所については、梅田さんから現在の場所を借り、資金においては、梅田さん及びおおばこ会の会員の方から資金の協力がありました。又、行政機関にお願いして助成金が受けられる体制を作り、遂に待望の作業所が平成5年に設立されました。

平成7年には、作業所の増床を図り設備改善がなされて今日に至っています。

2 運営方針

- 1 皆んなで築こう 明るい鳴和の里
- 1 世話をする人 支える人 各人の役割分担を行う
- 1 皆んなが主役お互いに他人に協力してやったという満足感を得るようにしよう

3 目的

精神的に心の病いがあるために、普通の人の

ように就労が困難と思われる人、又、精神不安定などで社会生活への参加に支障があると思われる人の通所施設です。自宅から通いながら作業や日常生活訓練等により適用能力をつけて社会への参加を図ることを目的とします。

4 場所

金沢市春日町11-2 梅田ビル2F

TEL 52-7344

5 職員

職員4名 非常勤1名 パート3名

6 通所者

23名

7 作業内容

箱折り 袋詰め シール張り
写るんですカメラの仕分け等の軽作業

8 年間行事

作業所で経験出来ないことを、行事等で有意義な経験を豊かにし作業所での生活をより充実させる。（花見 旅行 社会見学 カラオケ ボーリング等）

編集後記

北信越ブロック研修会を大盛況のうちに終えることができ、皆様、大変お疲れ様でした。一息ついているうちにたよりの発行が遅れてしまい申し訳ありませんでした。秋の夜長、虫の鳴き声に耳をすましてみるのも、気持ちが落ち着きますね。